

金陵電機、制御器160グラムの小型テレコン クレーン向けで安価

(2021/8/19 05:00)

金陵電機（大阪市淀川区、澤田力哉社長）は、クレーンの無線操作に適した国内最小・最軽量の無線遠隔操縦装置（テレコン）「ポケットBee」を商品化した。同一チャンネルで最大10台を電波干渉なく無線操作でき、現場に導入しやすい。クレーンメーカーを介し10月1日に発売する。価格はオープンだが、同社従来品より40～50%安い数十万円と想定。中小製造業を主な対象に、3年内に累計で約3000台の販売を計画する。



省電力設計の「ポケットBee」

テレコンは10個の操作ボタンが付いた制御器と、クレーンなどに取り付ける受信装置で構成する。手に持つ制御器は幅48ミリ×高さ146ミリ×奥行き30ミリメートルと小型化し、質量も電池を含まず約160グラムを実現した。

無線は2・4ギガヘルツ帯（ギガは10億）を使用し、通達距離は約100メートル。混信を避ける設計で、従来必要だった現場および周辺の無線チャンネルの事前確認が不要となり、導入時の手間を省ける。使用状況に合わせ、受信装置や制御器のチャンネルやアドレスなどの設定・変更も現場で簡易に行える。省電力設計も施し、制御器の連続使用時間は単4電池2本で約80時間と、金陵電機の従来品の約3・5倍となった。

同社は電気制御に知見を持つ技術系商社で2021年3月期の連結売上高は117億円。99年にアンリツのテレコン事業を買収しメーカー事業に参入した。国内製鉄業向けのテレコンはトップシェアを握る。新商品で中小製造業の需要を取り込み「ハンディタイプテレコンの国内シェアで現状の3割から5割強を目指す」（テレコン事業部）とする。